

□海外文献紹介□

ボツリヌス菌毒素の括約筋内注射
によるアカラシアの治療

Intrasphincteric botulinumtoxin
for the treatment of achalasia: *Pas-
tricha PJ, Ravich WJ, Hendrix
TR, et al* (N Engl J Med 322:
774-778, 1995)

ボツリヌス菌毒素は、局注すると
神経末端からのアセチルコリンの分
泌を阻害して、筋肉を麻痺させる効
果がある。斜視やジストニアなどの
骨格筋のスパズムの治療に多く利用
されており、副作用も少ない。下部
食道括約部の弛緩不全であるアカラ
シアの治療に、この方法を応用して
みた。

ボツリヌス菌毒素 20 単位を含む
溶液 1 ml を、静脈瘤硬化療法用の
針を使用して、内視鏡下に下部食道

括約部の 4 方向に、それぞれ 1 ml、
合計 80 単位を注入した。対照例に
は生理食塩水を同様に注入した。治
療は外来で施行し、注射後に一過性
の軽い胸痛を訴えた例があったほか
は、副作用はなかった。治療効果は、
自覚症状スコア (0~9 点)、VTR を
利用した食道造影、LES 圧測定、
および食道シンチグラムにより判定
した。対象は 19~74 歳の有症状男
女 21 例で、病期期間は平均 3.5 年、
症状スコアは平均 6.5 点である。

局注 1 週後に、ボツリヌス菌毒素
治療群 11 例中 9 例で症状が軽快し、
うち 5 例は無症状になったが、2 例
では無効であった。治療群では、
LES 圧が 33% 低下し、5 分後の食
道内停滞は $81 \pm 18\%$ から $54 \pm 36\%$
に減じ、LES 径は 204% に増加した。
対照群では、一時的な軽快が 1 例に

みられたほかは、いずれも変化はな
かった。

その後に対照群にもボツリヌス菌
毒素の局注を行い、合計 21 例でそ
の効果をみたところ、1 週後には 19
例で症状の軽快がみられた。2 か月
以内に 8 例で症状の再発があり、当
初無効の 1 例も加えた 9 例に再治療
を行い、3 例で軽快をみた。6 か月
後の時点で、14 例で緩解が続いて
おり、うち 11 例は 1 回治療したの
みのものである。

ボツリヌス菌毒素の LES 局治療
法は、アカラシアの簡単かつ安全な
治療法で、効果は数か月持続する。
Johns Hopkins 大学からの興味深い
報告である。

(多賀須消化器科・内科クリニック

多賀須幸男 抄)